

(新潟市社会教育委員会議) レポート様式

平成 21 年 1 月 24 日

「南区コミュニティ・センター・若成講座」の視察について

氏名 笹川 博人

- 1 訪問日 平成21年1月23日(水) 時: 15:15 ~ 17:15
- 2 会場 白根学習館
- 3 対象 地域住民(大通地区)に针对
- 4 運営団体 白根地区公民館 + 県立白根高等学校

5 活動の概要

11月21日に開催された白根高校におけるワークショップでは、大通地区の現状と把握し、コミュニケーションの方法を模索し、ターゲットとしてシルバー世代と若者の両者を対象とした。今回の発表において、19あった予定が実現可能な課題解決のため最適と考えた「高校生によるネット教室」が紹介され、2月22日と2月27日の2回地域生活センターにて開催が決定された。10代の若者とシルバー世代が交流できる機会であると思われ、タイトル上のテーマはシルバー世代と若者の交流と在りては存じない。

6 活動にみえる「次世代育成」

10代の高校生が親世代と通じ、シルバー世代と関わりを持つことで、孤立しがちな世代が互いに支えあえる機会があり、数年つづける。シルバー世代間のコミュニケーションの方向性を探る。高校生については、地域同世代の関わりがなされていないのは思われるが、このことを通じて世代間の関わりが深まる可能性がある。コミュニケーション・センター・若成講座に参加する若者のPRを押し進め、教室が数年で終わることなくつづけて行くことが大切である。卒業後もその経験を忘れないこと、ここで後継者とこの問題を議論を繰り返して行くことが大切である。

7 今後に向けて

公民館が地元には高校生がいない。地域課題を見つめ、考え、行動することと企画してはいるが、その地域には中高生がいない。若い人々の地域参加が重要になっていく。積極的に地域活動で空を飛ばすことが公民館がつけたい(図書館も)。これによって地域社会とつながっていくこと。又次世代育成も大事なことだが、今回のワークショップで目指しているシルバー世代の若者の交流の場も公民館、図書館の重要な課題として取り上げていく。

以上